

江戸川区 中小企業景況調査

2026年4月～6月 概要版

調査対象	製造業	116 社	卸売業	16 社
	小売業	55 社	サービス業	43 社
	建設業	46 社	不動産業	23 社
			合 計	299 社
調査時期	2026 年 6 月上旬			
調査方法	面接聴取法			
調査機関	(一社)東京都信用金庫協会			
分析作成	(株)サーベイリサーチセンター			

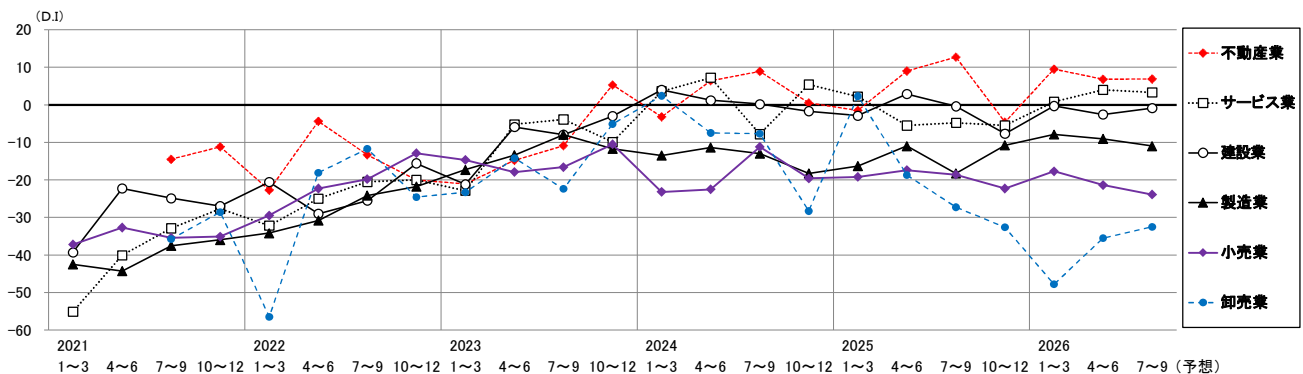
業況判断DIは前期(-8.3)から 0.9 ポイント落ち込み-9.2 となった。

～卸売業で大幅に、サービス業で多少の改善をしたが、
小売業や建設業、不動産業でやや悪化した。～

業況判断DI(季節調整済、「良い」企業割合-「悪い」企業割合)は-9.2(前期-8.3)と前期より0.9ポイント下降した。業種別に見ると、卸売業が大幅に改善したが、小売業や建設業、不動産業でやや悪化した。

来期は、卸売業で幾分改善が見込まれるが、小売業では若干の落ち込みが見込まれる。それ以外の業種では前期並が続くと思われる。

<江戸川区内中小企業の景況・6業種推移(D.I.)>



※D.I.(ディーアイ)とは

Diffusion Index(ディフュージョン インデックス)の略。良い(又は「上昇」「増加」など)と答えた企業割合から、悪い(又は「下降」「減少」など)と答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて、良いと悪いのどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

江戸川区の企業倒産動向

2026年4～6月期の江戸川区の倒産件数は、前期比54.5%増の17件(前期11件)、負債総額は前期比985.6%増の74億47百万円(前期6億86百万円)であった。

業種別件数は「建設業」が7件、「卸売業」が4件、「製造業」「サービス業」「不動産業」「情報通信業・運輸業」「宿泊業、飲食サービス業」「その他」が1件ずつで、負債総額は「卸売業」が59億円で最も多く、次いで「製造業」が9億87百万円であった。

今期の倒産動向は、「卸売業による負債額の巨大化」と原材料高の影響大きい「建設業による倒産件数の高止まり」という2つの顕著な傾向があった。

		(単位: 件・百万円)					
		前年同期 2025年4～6月		前 期 2026年1～3月		今 期 2026年4～6月	
		件 数	負債総額	件 数	負債総額	件 数	負債総額
製 造 業		0	0	1	80	1	987
卸 売 業		3	56	2	61	4	5,877
小 売 業		2	130	1	200	0	0
サ ー ビ ス 業		3	266	0	0	1	46
建 設 業		5	351	2	195	7	262
不 動 産 業		2	63	1	60	1	45
情 報 通 信 業・運 輸 業		0	0	2	20	1	11
宿 泊 業、飲 食 サ ー ビ ス 業		0	0	1	20	1	170
そ の 他		2	80	1	50	1	49
合 計		17	946	11	686	17	7,447

出典:東京都産業労働局「東京の企業倒産状況」(負債額1000万円以上の倒産 (株)東京商工リサーチ調べ)

業種別の景況動向

	前期	今期	来期予想	景況動向
製造業	-7.9	-9.1	-11.0	業況は前期並であった。売上額は変化なく、受注残は減少傾向が大きく増加、収益は減益幅が大幅に悪化した。 来期の業況は今期よりわずかに悪化すると予想している。売上額と受注残も減少傾向は今期並で推移し、収益は減益傾向が多少弱まると見ている。
	 普通	 普通	 やや悪い	
卸売業	-47.8	-35.5	-32.5	業況は悪化幅が大幅に緩和した。売上額と収益も水面下ではあるが非常に大きく持ち直した。価格面では、販売価格は大きく上昇し、仕入価格は上昇傾向がわずかに強まった。 来期の業況はわずかに改善すると予想している。売上額と収益は水面下ながら大きく改善し、持ち直すと見ている。
	 とても悪い	 とても悪い	 とても悪い	
小売業	-17.7	-21.4	-23.9	業況は若干悪化した。売上額と収益は、ともに水面下で前期並であった。価格面では、販売価格が多少上昇し、仕入価格は大きく上昇した。 来期の業況は悪化幅がやや拡大すると予想している。売上額は減少幅が大幅に改善し、収益も減益幅がわずかに改善すると見ている。価格面では、販売価格はやや上昇し、仕入価格は今期並と見ている。
	 普通	 やや悪い	 やや悪い	
サービス業	0.8	4.0	3.3	業況は多少前期を上回った。売上額は前期同様の水準で、収益は前期並だが良好感が出た。価格面は、わずかに上昇し、材料価格は大きく上昇した。 来期の業況は今期並を維持すると予想している。売上額は大きく悪化に転じ、収益は今期並を維持すると見込まれる。価格面では、わずかに上昇し、材料価格はやや減少すると予想している。
	 やや良い	 やや良い	 やや良い	
建設業	-0.3	-2.6	-0.9	業況はやや悪化した。売上額は大きく減少し水面下となり、受注残もかなり減少し再度水面下となった。施工高もやや減少に転じた。価格面では、請負価格は大きく減少し、材料価格は大きく上昇した。 来期の業況は横這いが続くとしている。売上額はやや減少し、受注残は今期並が見込まれる。施工高も若干減少し、価格面では、材料価格が大きく上昇すると見ている。
	 やや良い	 普通	 やや良い	
不動産業	9.5	6.8	6.9	業況は前期をやや下回った。売上額は水面下を脱して大きく上昇した。収益は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は前期をやや上回り、仕入価格は前期並の水準が続いた。 来期の業況は今期並の水準が見込まれる。売上額は好調さを大きく強め、収益はプラスに大きく転じると予想している。
	 良い	 良い	 良い	

(参考) D.I.に基づく景況判断指標

	 とても良い	 良い	 やや良い	 普通	 やや悪い	 悪い	 とても悪い
製造業 卸売業 建設業	20 以上	19～10	9～0	△1～△10	△11～△20	△21～△30	△31 以下
小売業 不動産業	10 以上	9～0	△1～△10	△11～△20	△21～△30	△31～△40	△41 以下
サービス業	15 以上	14～5	4～△5	△6～△15	△16～△25	△26～△35	△36 以下

2026 年 8 月発行
江戸川区 産業経済部 経営支援課 調査計画係
TEL:03-5662-9014 (直通)